



北雪時代加見
美談

和歌
押
目
五
春

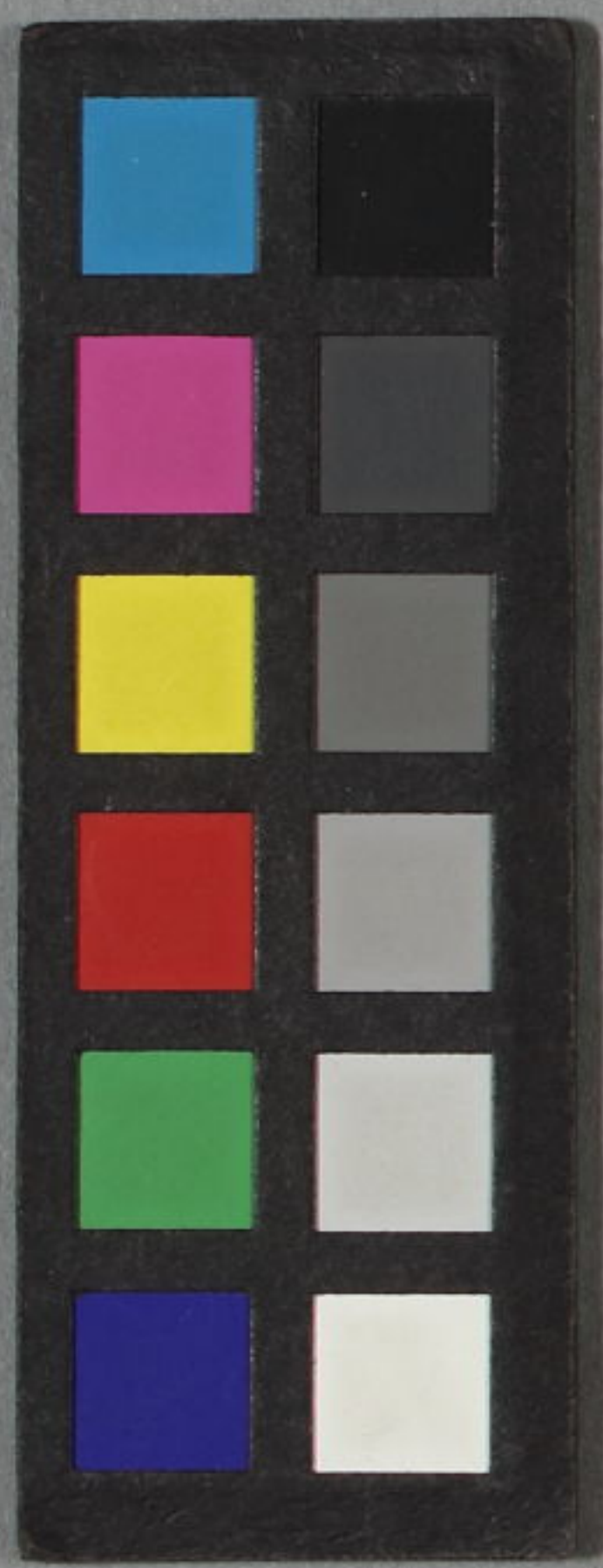
下編



外題
歌
五
團
画

為永英多化
歌
八
國
貞
画

二編上







小室み狭河代鏡二の海の上
まろのまろく玉貞志のく
芝林のあ若狭板

世ふ夢及き人あり病健勞逸論せし眼
閑坐則夢む素より夢の信を言ふ信を言ふ
又信を言ふ是は多のく正夢のゆほ邪発夢の
論のこゝと北山盤話よりゆほ終説出さんと
思ひが恁と夢の講釈のまゝ這半員
のちやまをん基と見戯の策子と見ん
○ひる夜
世も真名流遺
まろのまろく其のまろの赴向不倦く諸の合のまろく
言のまろく其場へ遊たれどもかまろくまろく何と命作者の用心
薄く不似これ夢も夢見まろくまろく支城巻首不録と端文不換の
嘉永八歳卯の初春 烏永春水誌焉



時代二



再出
由縁之五
春展



正方の
内室の
梅園前

白山雪若
友冬

湯尾刀監
連遊



船越
惣吾

長谷部文内
婿



花哲郎
ト光

前大領正國の
愛妻
早浪



一の巻
男とさき

二の巻
三の巻

四の巻
五の巻

六の巻
七の巻
八の巻
九の巻
十の巻



一の巻
二の巻
三の巻
四の巻
五の巻
六の巻
七の巻
八の巻
九の巻
十の巻

十一の巻
十二の巻

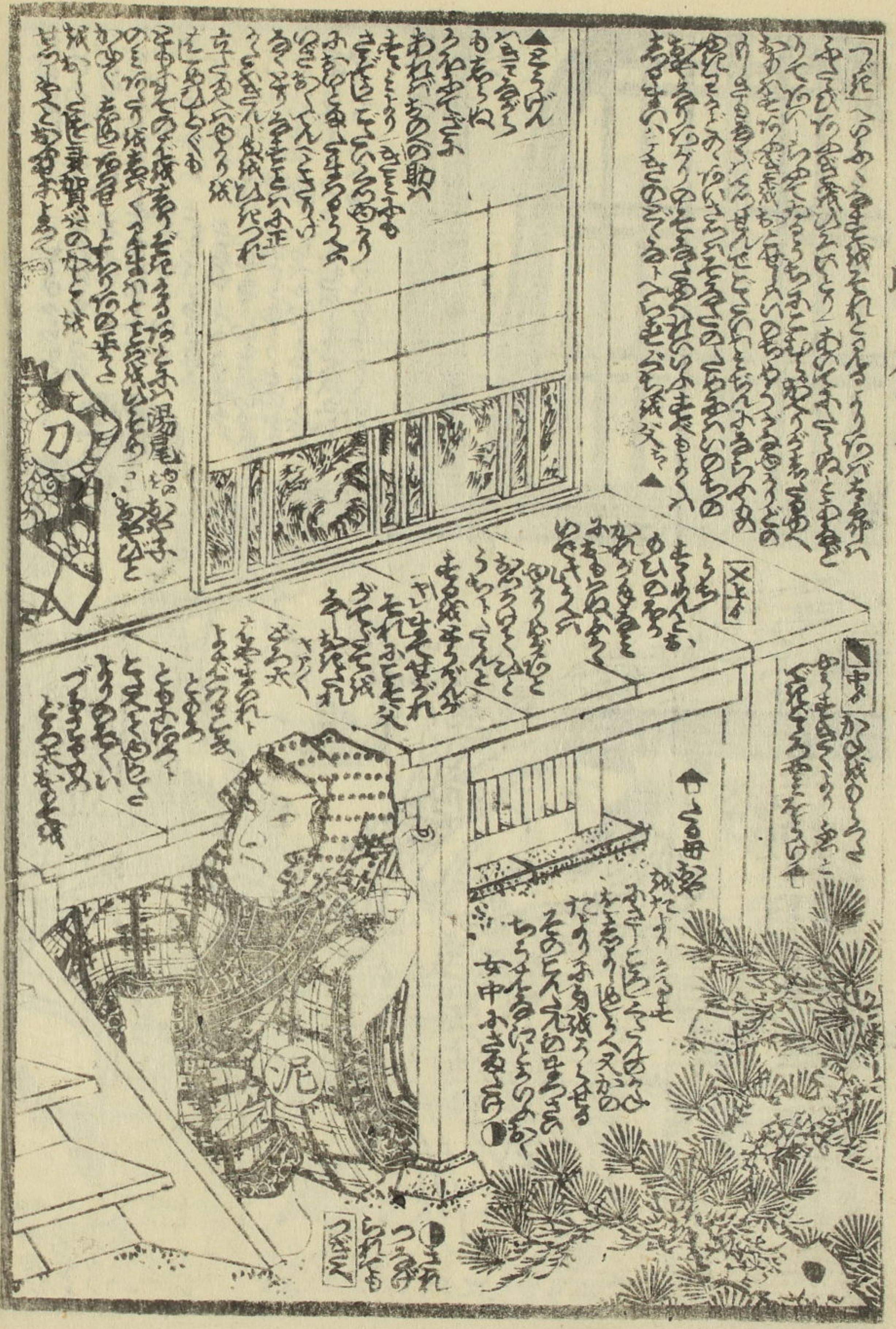
十三の巻
十四の巻
十五の巻
十六の巻
十七の巻
十八の巻
十九の巻
二十の巻

二十一の巻

二十二の巻

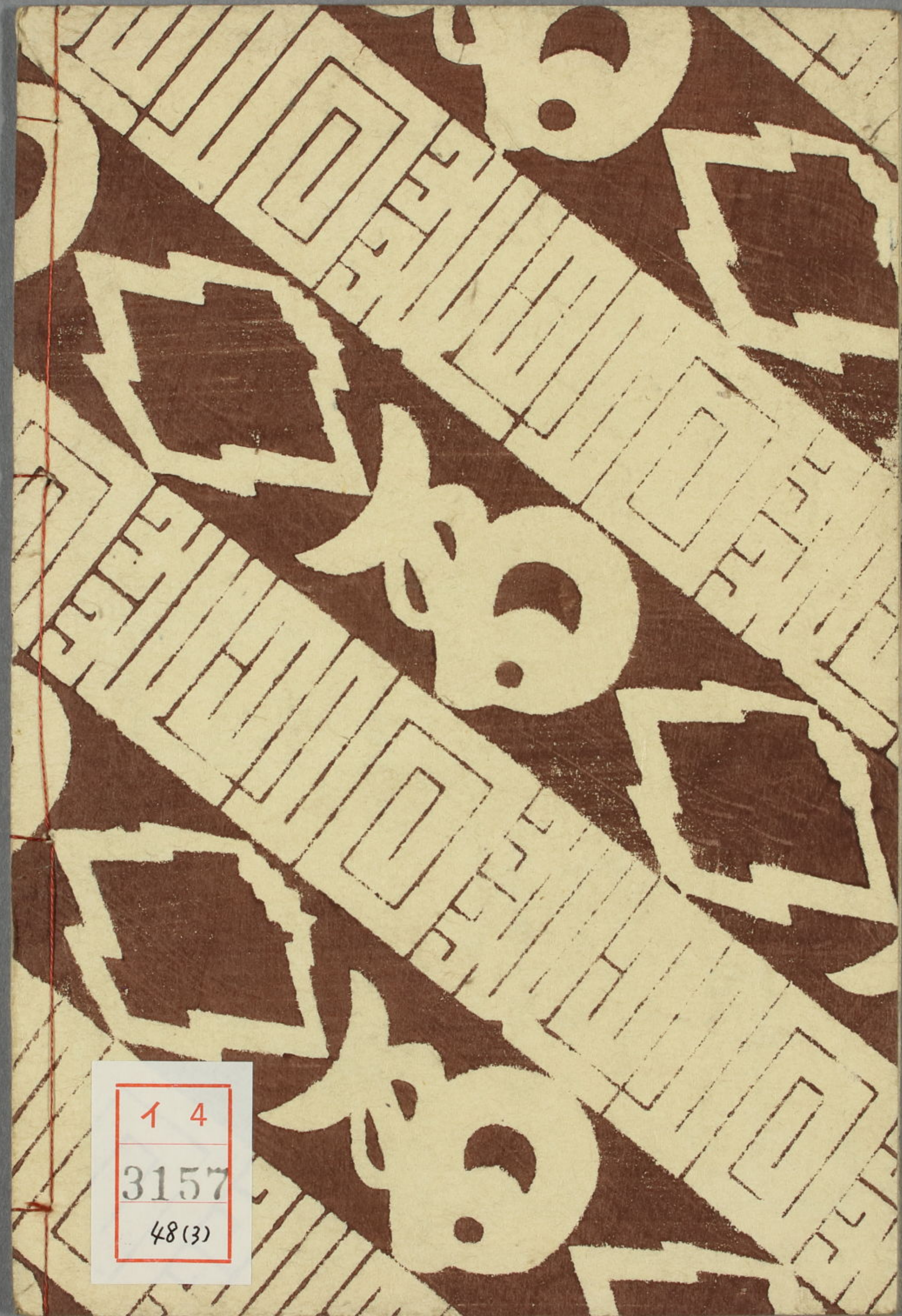






肝
仁
二

十

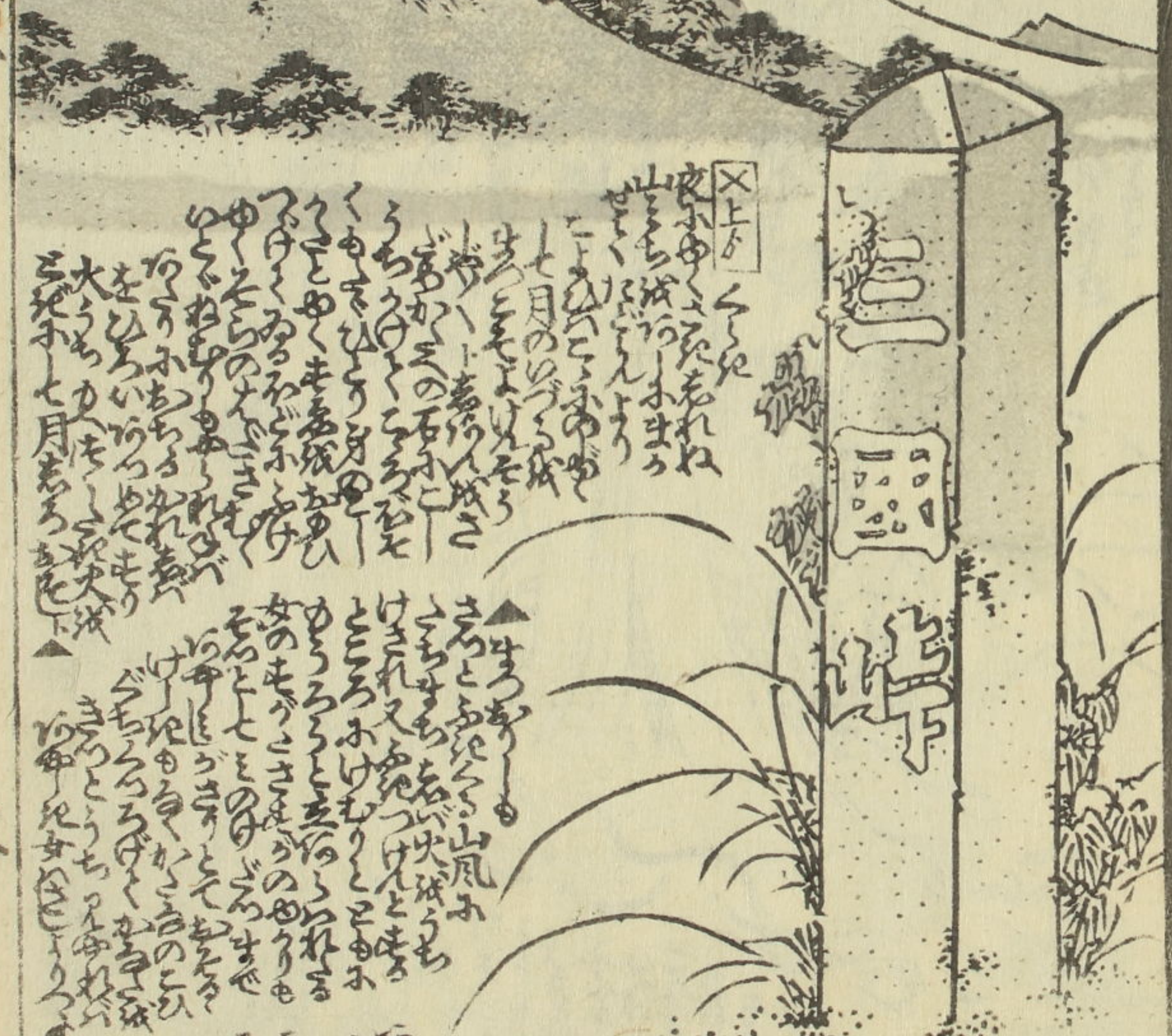


1 4
3157
48(3)



中七 三 卍

山はあまのついでに... 三國峠... 山はあまのついでに... 三國峠... 山はあまのついでに... 三國峠...



三國峠下... 山はあまのついでに... 三國峠下... 山はあまのついでに...

卍

北雲

美談

時代加々見

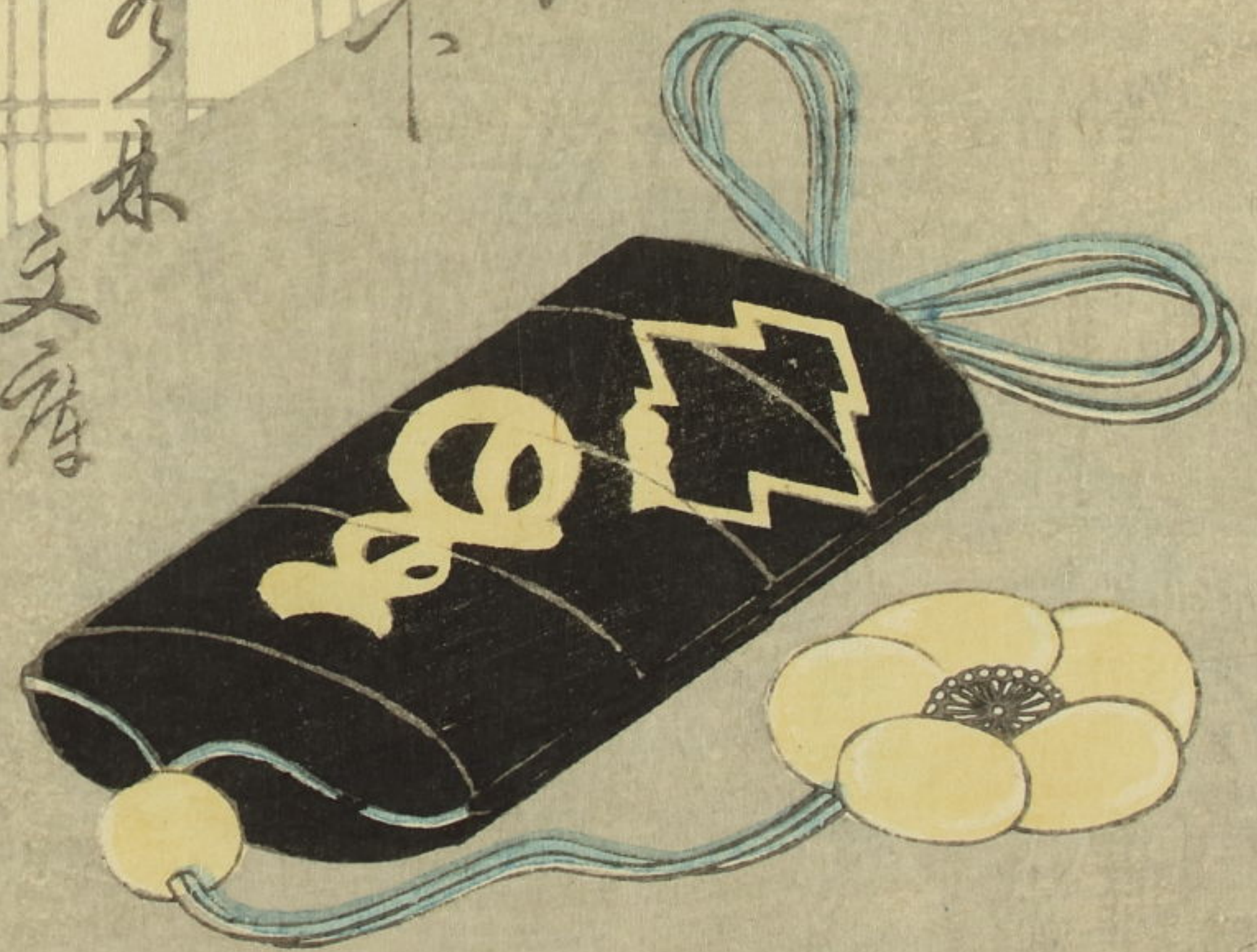
春水化

國貞画

二編の下

のり林

文庫





井

天

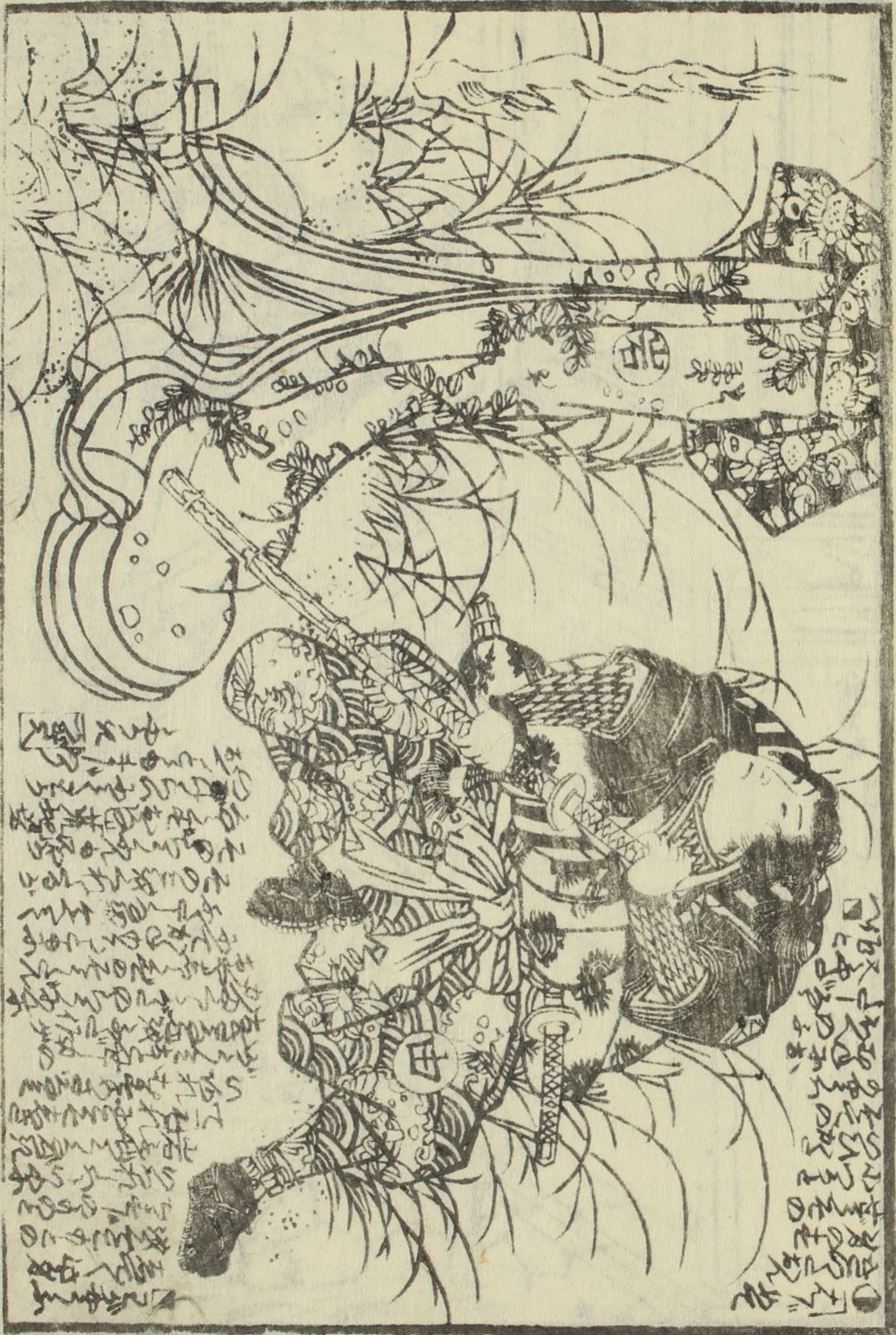
下



甲

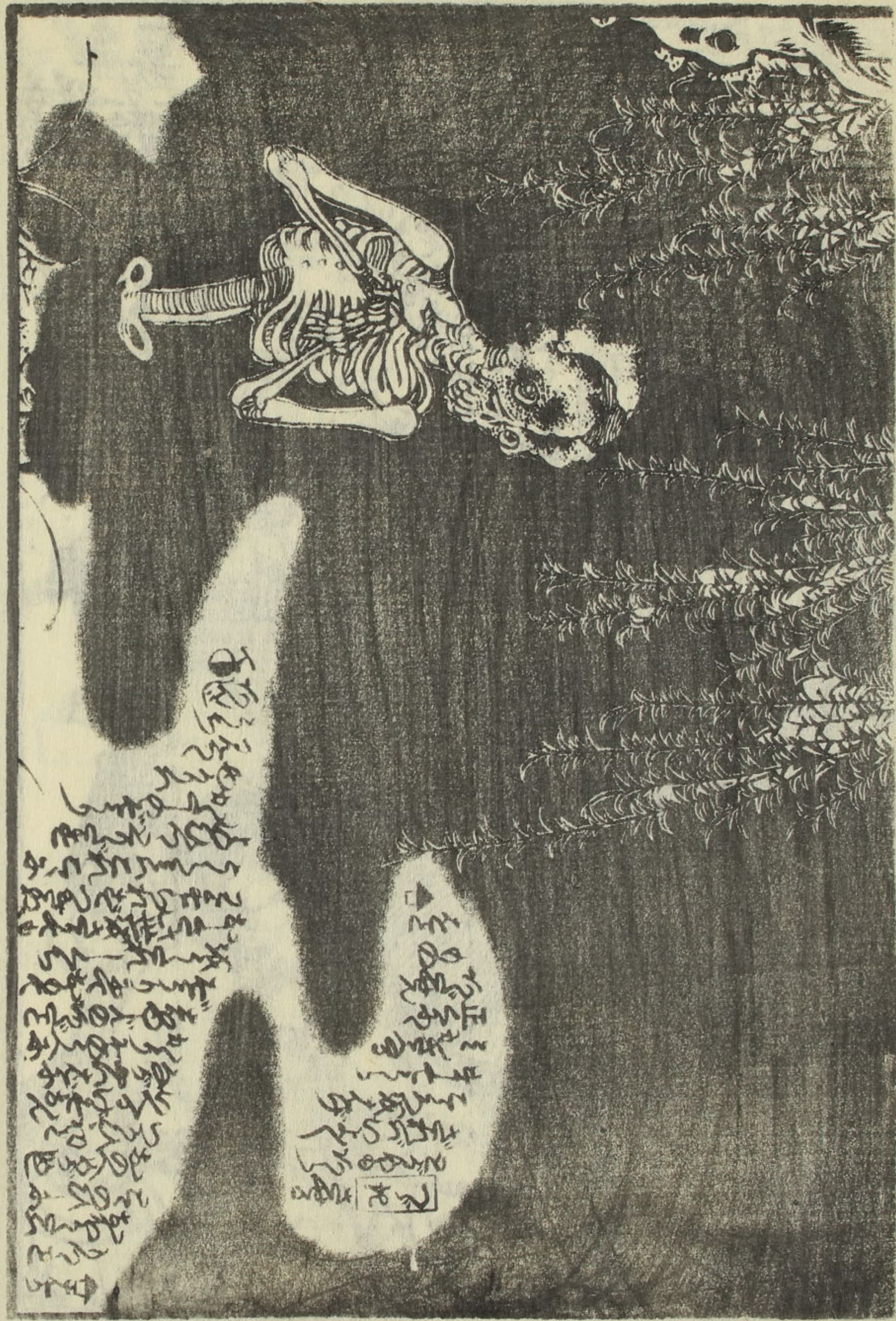
天

下



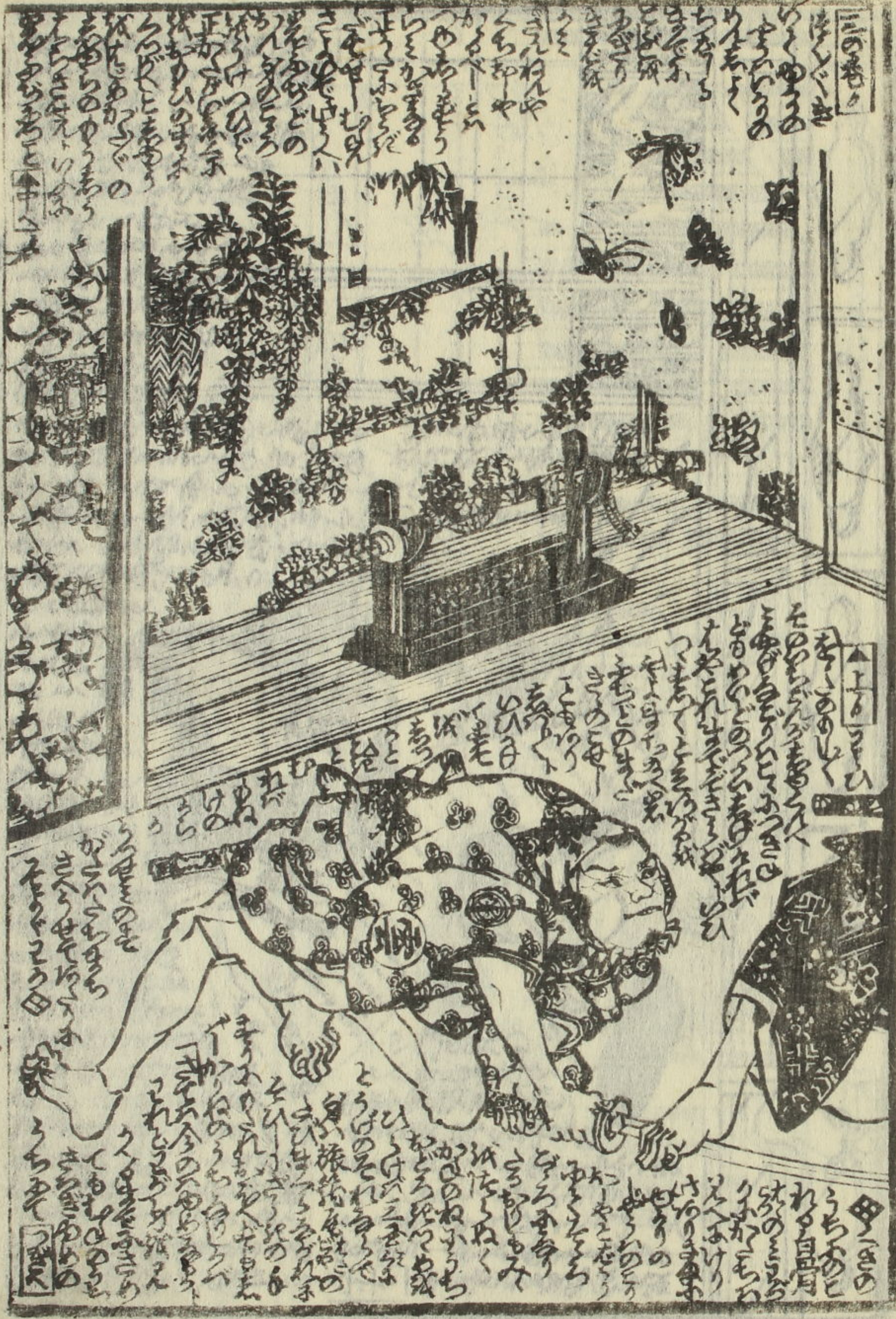
月夜

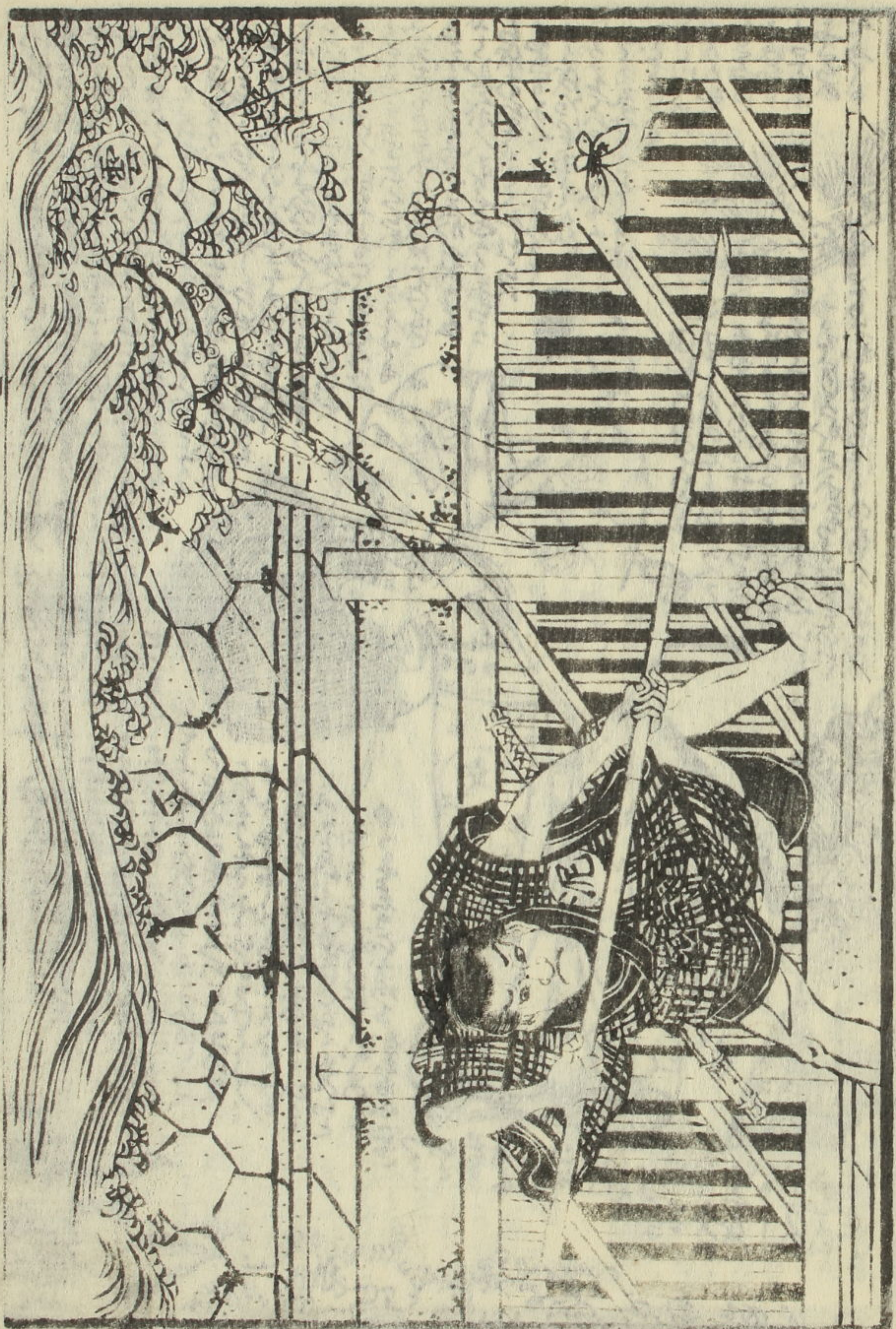
月夜



月夜

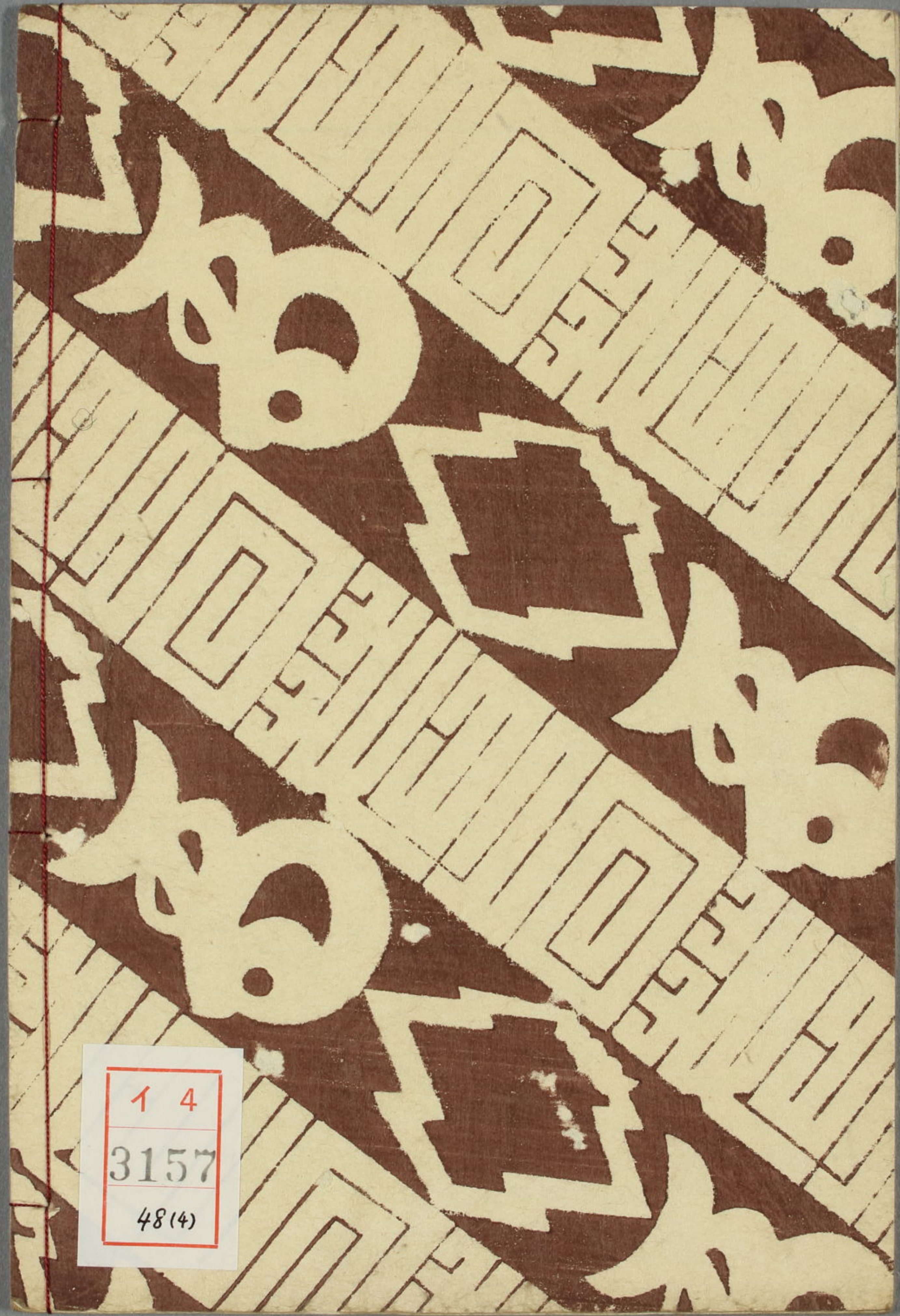
月夜











1 4
3157
48(4)